
運命

神楽珠杏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命

【Nコード】

N0615A

【作者名】

神楽珠杏

【あらすじ】

ある男の人が、運命を用いて、失業したらしい女の人を励まします。彼の言葉に彼女は、少し自分を取り戻します。

「人生はどうしてこう上手くいかないのかしら。」
「人生だからだよ。」
「答えになつてないわよ。」
「うーん。じゃあ運命だから。」
「運命？」
「そう。この世のものはすべて運命によって動かされているのだよ。」
「じゃあ、今こうやって話をしていることも運命？」
「そう。全部運命。僕が男に生まれたことも、君が女に生まれたことも。」
「まあそれは運命かもしれないわね。」
「そうそう。日本に四季があるのも、食塩がNaClなのも、最初からそう決められていることなんだ。」
「ニヒリストがいたり厭人家がいたりするのも運命なのね。ずいぶん暗いわね。」
赤いサイレンを回しながら救急車が通った。
「君が失業したことも運命なんだよ。」
「いやな運命ね。」
「運命なんだからそんなに落ち込む必要はないんだよ。なんたつて運命なんだから。」
「それってなんだか運命を理由に逃げてるみたいでいやだわ。責任をすべて運命に負わせて。」
「それは少し違うよ。僕が言いたいのはそういうことじゃなくて、ただ運命を、現実起こったこととしてしっかりと受け止めてほしいってことなんだ。」
「失業は起こるべくして起こったことだから仕方がないって？誰のせいでもないと？」

「そう。君を失業に追いやった人も悪くはないんだよ。」

「それがあなたの処世術なのね。いかにも博愛主義者らしいわね。」
「博愛主義者ではないけれど、処世術っていうのは合ってるかも知れないね。僕は争いを見ることも巻き込まれるのも嫌いだからね。」
ウエイトレスがコーヒーのおかわりを注ぎにきた。

「私のこれからの運命はどうなっているのかしら。」

「どうなっていてほしい?」

「そうねえ。今度はもっと優しい人たちのいるところで仕事がいわ。できれば今までと同じように絵に関する仕事。恋愛もしたいし結婚もしたい。子供もほしい。まだまだやりたいことがいっぱいよ。」

「そこまで言えるなら大丈夫。きつと思いつりになるよ。」

「どうして?運命は決まっているんでしょう?」

「うん。そう。たしかにそうだ。でも君は今、運命の存在を知ったんだ。」

「それがどうかしたの?」

「とても大事なことなんだ。君は運命を知ったことで、運命と戦えるようになったんだ。今までは知らなかったから運命と戦おうとは思わなかった。けれど今は違う。やりたいことをやるために運命と戦うんだ。」

「運命と戦う?」

「そう。君は今のまま運命に流されてもいいの?自分から何の行動も起こすことなく、流されたまま人生を送るの?」

「いや、いやよ、そんなの絶対によ!」

「なら、今から必死に運命と戦うんだ。無駄に終わるかもしれないけれど、何もしないでいるのはもっと無駄だろう?君にはそれだけの力があるんだ。」

「・・・運命と戦う。」

「そう。君は結構負けん気が強いし、気も強いし、根性もあるしね。きつと立派に戦える。」

彼女は僕の顔をじっと見つめた。

「それに、運命は案外人の心に弱いんだ。
僕はパチリとウインクをして見せた。」

(後書き)

これを読んで、何か考えてもらえるとうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0615a/>

運命

2010年10月28日08時47分発行